

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「日本の文字文化 / 【コラム】仮名づかい」 教材名「日本の文字文化 / 【コラム】仮名づかい」

2 単元の目標

漢字や仮名の由来・特質を知り、漢字と仮名や仮名遣いに注意して書くことができる。読み手と目的に合う表記になっているかを確認、文章を直すことができる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①漢字や仮名の由来・特質を知り、漢字と仮名や仮名遣いに注意して書いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(3)ウ）	①「書くこと」において、読み手と目的に合う表記になっているかを確認、文章を直している。（B(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

漢字・平仮名・片仮名の由来や特徴を知り、現在の文でどのように使い分けられているかを確認する。由来を形の似方だけで推測しない。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(3)ウを、言語活動の中で確認する。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

教科書の解説や信頼できる文字資料で由来を確認し、現代の独自例文の表記を比べる。歴史的仮名遣いは紹介された範囲を扱い、現代文の表記と混ぜない。おおむね満足できる状況は、読み手と目的に合う表記になっているかを確認、文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○文字の由来を資料で確かめる。現在の表記の使い分けを比べる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○独自例文の文字種を替えて読む。意図に合う表記を理由付きで選ぶ。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

読み手と目的に合う表記になっているかを確認、文章を直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「文字の種類を変えると、読みやすさや伝わる感じはどう変わりますか」 【めあて】漢字・平仮名・片仮名の由来や特徴を知り、現在の文でどのように使い分けられているかを確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 漢字があると意味のまとまりが見える。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「文字の種類を変えると、読みやすさや伝わる感じはどう変わりますか」 独自例文の文字種を替えて読む。意図に合う表記を理由付きで選ぶ。 文字の由来と特徴のメモ、表記を変えた独自例文、使い分けた理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 漢字があると意味のまとまりが見える。 ・ 平仮名と片仮名では使う場面が違う。 ・ 昔の文字を今の文字と同じに読めないことがある。	教科書の解説や信頼できる文字資料で由来を確認し、現代の独自例文の表記を比べる。歴史的仮名遣いは紹介された範囲を扱い、現代文の表記と混ぜない。 想定するつまずき：全て漢字にするほどよい文だと考える、字形の似ている現代字を由来と断定する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 読み手と目的に合う表記になっているかを確認、文章を直している。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 昔の文字を今の文字と同じに読めないことがある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。 書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「文字の種類を変えると、読みやすさや伝わる感じはどう変わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

